

倉吉の歴史的資源を活用したまちなみ活性化事業

1. 事業実施団体

株式会社赤瓦（倉吉市）

＜倉吉の中心商店街にある玉川土蔵群の街並み保存と新たな活用により、地元商店街の活性化と環境事業の進行及び充実を目的として、賃借可能な土蔵を回収整備し、訪れた人々に「観・食・買・憩」の四つのもてなしを提供する活動を行っている。＞

2. 県の協働担当課

中部総合事務所県民福祉局 中部地域振興課

＜中部地区（倉吉市、湯梨浜町、三朝町、北栄町、琴浦町）の地域活性化支援を担当する部署。＞

3. 課題及び目的

倉吉市の中心市街地に位置する古民家、旧店舗といった歴史的資源を活用し、地域の観光、宿泊拠点を整備する。観光入込客の滞在時間を確保し、賑わいと活気があふれるエリア形成を図ることを目的とした。

4. 課題解決の手法

(1) 調査研究会議

外部専門家を招聘し、地元調査研究メンバーと一緒に調査研究を行い助言頂く。

(2) 連携協定締結式

協働による地域課題「倉吉市の観光客減少と通過型観光地」の解決を図る新たな官民連携事業の締結式を行い情報発信をする。

(3) 連携協定締結記念シンポジウム

古民家再生などに取り組む方々をパネリストに迎え、古民家利活用の有効性について考える。取組の必要性を、市民や事業者、空き古民家の所有者のみなさんに理解して頂くとともに、活用促進により地域の活性化を図る。

(4) 再生古民家リモート見学会

本事業による取組内容及び古民家の持つ歴史的価値、魅力等を広く県民、市民に周知するため歴史的資源である古民家について、VTRによる一般見学会を実施する。

(5) 再生古民家に関するリーフレットの作成

PR活動のためのリーフレットを作成する。

(6) web ポータルサイトの構築

周辺エリアの古民家宿泊施設のwebポータルサイトを構築し、国内外の観光需要の取り込みを図る。

5. 主な役割分担

【事業実施団体】

古民家等の文化財を保存・活用した分散型宿泊施設事業を実施するためのインフラ整備、当該古民家等の賃貸。

【行政】

- ・各種法務上の確認における関係機関との連絡調整（民泊新法、旅館業法、旅行業法、建築基準法、消防法等）
- ・宿泊施設立ち上げの支援（外国語表記、新メニュー開発等）
- ・周辺アクティビティとの連携支援（三徳山、東郷湖）
- ・県関係部局との連絡調整及び情報発信

6. 成果

(1) 調査研究会議

内閣官房「歴史的資源を活用した観光まちづくり」のメンバーであり、兵庫県篠山城下町ホテル NIPPONIA 等の伝統的建造物のホテル再生等で全国的に大きな実績のあるバリューマネジメント株式会社を外部専門家として招聘し、地元調査研究メンバーとともに調査研究（現地調査、活用物件の抽出、基本計画の検討、運営シミュレーション、工事費予測、実施運営体制の検討、工程計画の検討等）を行った

(2) 連携協定締結式

令和2年10月26日に倉吉市、小川家当主齋藤信子、バリューマネジメント株式会社、株式会社鳥取銀行、株式会社山陰合同銀行、倉吉信用金庫と小川家住宅（鳥取県指定文化財）をはじめとする歴史的資源を活用した観光まちづくりにおける連携協定を締結した。



(3) 連携協定締結記念シンポジウム

新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、古民家化再生などに取り組む方々をオンラインで結び、古民家利活用の有効性について考えるシンポジウム「連携協定締結記念シンポジウム兼再生古民家一般見学会古民家活用の未来@オンライン」を、令和2年3月18日に実施した。

古民家の持つ歴史的価値、魅力などを、広く県民や市民に知って頂くため、「ZOOM」でのオンラインシンポジウムを「YouTube」でLIVE配信を行い、オンライン上で質問を募集し、質疑応答できるプラットフォームを構築した。歴史的資源である古民家等を紹介しながら、双方向で意見を募集し、今後の企画立案に役立てる。



(4) 再生古民家リモート見学会

地域の古民家やゲストハウスに宿泊いただき、地域の文化や観光地の魅力を理解してもらうための宿泊体験モニターを実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「連携協定締結記念シンポジウム兼再生古民家一般見学会古民家活用の未来@オンライン」にて、白壁土蔵群に2020年春にオープンした1棟貸し切り町家の宿「toco. toco」をVTRにて紹介した。大正から昭和に移り変わる時代のロマンでレトロな空間に溶け込む滞在を提案した。



当初の目標参加者数120名に対し、視聴者数は440名と大幅に上回る。全国からのアクセスが可能なりモットが功を奏した。

倉吉市の観光課題と古民家利活用の観光推進、連携協定の締結と役割、再生古民家リモート見学会等について意見交換を行い、市民や事業者は古民家利活用の有効性について考え、当事業を理解して頂くきっかけとなった。

(5) 再生古民家に関するリーフレットの作成

「倉吉の歴史的資源を活用したまちなみ活性化事業」の紹介、整備予定の小川邸、連携協定の締結内容、エリアの古民家宿泊施設を紹介するリーフレットを作成した。(1,800部)

リーフレットは、倉吉白壁土蔵群観光案内所、JR倉吉駅内観光案内所、打吹回廊、倉吉市役所、鳥取県庁、赤瓦各館等にて紹介及び配布。また倉吉観光 MICE 協会による県外観光業者へのPR資材に活用。



(6) web ポータルサイトの構築

令和3年3月に、民家宿泊webポータルサイト「KURAYOSHI STAY」(<https://kurayoshi-stay.jp>)を立上げ、公開した。「倉吉の歴史的資源を活用したまちなみ活性化事業」の事業紹介も行い、進捗状況等も紹介しながら、整備後の発信も視野に入れたプロモーション活動を行う。令和3年度以後においては、歴史的資源である文化財等の施設整備の状況を県民のほか広く対外的にPRするとともに、観光団体等への周知・営業活動にも活用する。



7. 事業終了後の状況

令和2年度の事業実施を経て、地域の方が所有されている古民家の利活用の問い合わせが2件あり、ワーキンググループにて現地踏査を行った。利活用の可能性について今後検討を進める。活用検討物件の中で文化的価値が一番高いと位置付けている小川家住宅の利活用を、最優先目標とし、令和6年度オープンを目指す。